

保険の原理では、リスクに直面した場合に給付する保険金の財源は保険料で賄います。自動車保険はそうです。事故に遭うと給付される保険金の財源は加入者の保険料で賄われ、保険全体の支出と収入の帳尻を合わせます。保険料は事故に遭う確率も考慮して決められます。「ゴールド免許」を持つ優良運転手は事故に遭う確率が低いとみられるので保険料が安く運

ニュースを読み解く

やさしい経済学

第3章 社会保障の考え方

慶応義塾大学教授 土居 丈朗

転手には多く保険金を給付しなければならず、それに備えて高い保険料が課されます。もし同じ原理を社会保障にも徹底すると、どうなるでしょう。病気になる確率が高い高齢者には、貧富にかかわらず若い人より高額の保険料を課することになります。低所得者は負担に耐えられませんの

で、実際にはリスクや年齢にかかわらず、低所得者には保険料を減免し、高所得者には高い保険料を課しています。これは、まさに所得格差の是正です。その際、保険料減免のために、税金が投じられることもあります。社会保障は、リスクに備えた保険の機能と、所得格差を是正する(所

所得格差を是正する

得再分配)機能の両方を担っているのです。社会保障で扱うリスクの多くは、不幸なことです。病気になったり医療保険、失業したら失業保険です。しかし、年金保険だけは少し違います。想定しているのは、予想より長生きした結果、蓄えが尽きるリスクです。予想より長生きすることは、不幸でなく喜ばしいことです。

そのうえ、一定年齢に達すれば誰でも年金給付がもらえます。保険ではなく「老後に備え積み立てた資産」とみる人も多いでしょう。国民全員加入の年金は、キリギリスのように若いときに貯金しない人にも、政府が強制的に貯金させているともみなせます。積み立てた資産との見方に立つと、年金の給付削減は自分の資産を減らされたものと思ってしまう。しかし、現行制度は資産というより、現役世代が負担し高齢者に給付する保険の性格が強いのです。